

洞爺湖町
まち・ひと・しごと創生
総合戦略

進捗状況報告書
【平成30年度】

令和元年7月
洞 爺 湖 町

目 次

1 総合戦略進捗状況報告について	1
2 総合戦略の進捗状況（体系図）	3
<u>（1）基本目標1 特色ある地域資源を生かした元気産業から雇用創出を図る</u>	<u>4</u>
①創業支援と販路開拓	6
<u>（2）基本目標2 美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する</u>	<u>8</u>
①移住・定住促進	10
②社会減の縮小を目指した魅力ある地域体験暮らしの実施	11
③地域資源「温泉」を活用した元気なひとの多いまちづくり	12
④観光誘客促進による交流人口の拡大	13
<u>（3）基本目標3 自然豊かなまちの魅力を生かし、</u>	
<u>結婚・出産・子育ての希望をかなえる</u>	<u>14</u>
①結婚の希望をかなえる地域の魅力を生かした出会いの場の創出	16
②出産・子育てに対する支援策の充実	17
③学校・家庭・地域と連携した学習環境の創造	18
<u>（4）基本目標4 特色のある地域をつくり、</u>	
<u>安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する</u>	<u>20</u>
①洞爺湖有珠山ジオパークによる広域連携	22
②医療・防災・産業などの生活利便性確保と地域振興に向けた広域連携	23
③地域と連携した災害に強い地域づくり	24
④公共施設や生活基盤の近接化による「小さな拠点」の形成	25

1 総合戦略進捗状況報告について

(1) 目的

本報告書は、洞爺湖町人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）の目標（2060年（令和42年）に約2,500人の施策効果）や、洞爺湖町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）に掲げた4つの基本目標（①特色ある地域資源を生かした元気産業から雇用創出を図る、②美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する、③自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④特色のある地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する）の実現に向け、総合戦略に掲げる施策の着実な推進を図るため、実施した施策・事業の進捗状況を把握し、効果検証を実施することを目的とします。

(2) 総合戦略の進行管理について

総合戦略では、人口ビジョンから見えてきた課題を解決するため、一定の政策分野ごとの「基本目標」、さらに基本目標ごとに実施すべき施策を「具体的施策」として位置づけ、それぞれの内容に沿って客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定しており、これらを進行管理の目安として進捗状況を把握します。

また、今後検討すべき取組についても位置づけており、検討状況等を把握します。

■施策・事業進捗状況シート

具体的な施策毎に施策・事業進捗状況シートを作成します。

事業概要では、具体的な施策を実施するに当たり、これまで実施してきた事業内容を記入し、計画から実施については、目標項目・進捗状況を把握するため、重要業績評価指標（KPI）ごとの数値及び達成率を把握します。

評価及び改善については、担当課による評価及び改善点を示した後、「洞爺湖町まち・ひと・しごと創生有識者会議」の意見を踏まえて、必要に応じて施策内容を見直し戦略へ反映させます。

(3) 報告書の対象年度

本報告書では、総合戦略の計画期間（平成27（2015）～令和元（2019）年度）のうち、平成30年度の実績を示します。

(4) 総合戦略の進捗状況

①進捗率の算出方法

進捗率は、重要業績評価指標（KPI）が計画期間内にどのくらい進捗が図られたのかをわかりやすく示すため、次のとおり算出しています。

【算出式】

$$0\% \leq \left[\text{進捗率}(\%) = \frac{\text{当該年度現況値} - \text{基準年度現況値(平成 26 年)}}{\text{目標値(令和元年)} - \text{基準年度現況値(平成 26 年)}} \times 100 \right]$$

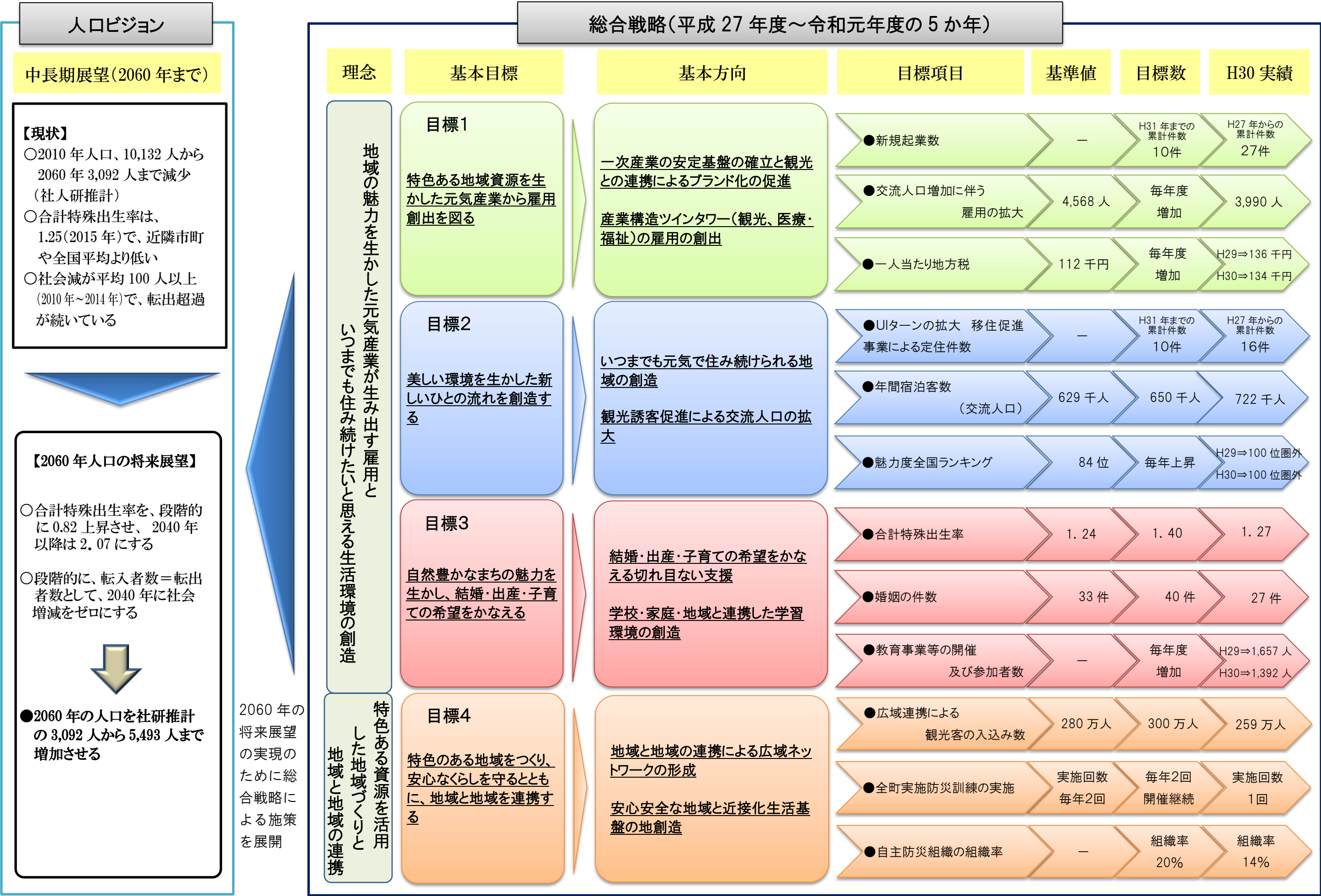
この算出方法は、目標値（令和元年）までの出発点を基準年度現況値（平成 26 年）とし、目標達成率が 0 % からのスタートとなるため、各指標の成果を明確に示すことができます。

②評価方法については、

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標通りに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

2 総合戦略の進捗状況

体系図



基本目標 1

特色ある地域資源を生かした
元気産業から雇用創出を図る

（１）基本目標１：特色ある地域資源を生かした元気産業から雇用創出を図る

■数値目標

目標項目	基準値	目標値（２０１９年）
①新規起業数	—	１０件
②交流人口増加に伴う雇用の拡大 （町内事業従業員数）	４,５６８人	毎年度増加
③一人当たり地方税	１１２千円	毎年度増加

■基本的方向

- 活力に満ちた元気産業を創造するため、北海道有数の農業地帯である本町はクリーン農業による高品質の農作物の安定供給と、水産業は流通体制の強化による経営基盤の安定化（事業継続）を図り、観光産業等との連携による農水産業の流通拡大や一層の付加価値の向上によるブランド力を促進する。
- 商工業は他産業との連携を推進し、経営基盤強化を図りつつ、地場産品の利用促進、新たな加工品や地域グルメの開発・研究に努めると共に、空き店舗などへの新規企業の誘致促進を図る。
- 就業相談や情報提供体制、職業能力開発体制の強化等により、遊休施設の有効活用や魅力ある観光型産業を創出し、新たな起業や既存企業の活性化を促進し、地域雇用機会の拡大を図る。
- 洞爺湖町において最も従業員数の多い医療・福祉分野を生かして住みよい地域づくりを創造し、移住・定住を見据えた医療・福祉分野の雇用創出を図る。

■具体的な施策と客観的な重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
①創業支援と販路開拓 ・産業団体への支援や地域素材を生かしたしごとづくり ・産業構造ツインタワー（観光、医療・福祉分野）への雇用拡大支援 ・空き店舗を活用した起業支援 （改装費、備品購入費、家賃等の補助） ・町内消費喚起と経済活性化支援 ・特産品流通拡大とブランド化の支援 ・地域資源を活用した地熱発電や二次利用等による環境都市創造のしごとづくり	・起業に向けての年間相談案件：１０件 ・起業支援助成件数：２０件（２０１９年度まで）

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:産業振興課、農業振興課、観光振興課							
基本目標		1 特色ある地域資源を生かした元気産業から雇用創出を図る							
具体的施策		①創業支援と販路開拓							
事業概要		一次産業の安定基盤の確立と観光との連携によるブランド化の促進を図るため、農業においては、堆肥などの有機物を活用した土づくりを行い、安全・安心な農産物を生産し、持続可能な農業への取組を実施しており、漁業については、虻田漁港(大磯分区)を整備することにより、経営基盤の安定化を図っている。 また、商工業については、地域に根ざした特色あるショップの開業者や起業者の支援をする「チャレンジショップ支援事業」などを実施している。 産業構造ツインタワー(観光・医療・福祉)の雇用拡大支援については、従業員数の多い医療・福祉分野を生かし、単身者住宅の建設など移住・定住を見据えた対策を実施している。 地域資源を活用した地熱発電については、金比羅山火口周辺での開発により地熱エネルギーによる地熱発電、二次利用による有効活用を図り、地域と共生する取組を実施している。 【主な関連事業】 チャレンジショップ支援事業、グローバルギャップ認証維持継続事業補助、6次産業化推進検討会運営事業、洞爺湖温泉地熱開発付帯設備整備事業、ジオパーク広域連携事業、西いぶりクラウドファンディング販路拡大事業							
計画(P)↓実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項 起業に向けての年間相談案件							
		KPI	50件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	－	12件	15件	12件	14件		累計53件
		進捗率	－	24%	54%	78%	106%		
		②目標事項 起業支援助成件数							
		KPI	20件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	－	6件	10件	8件	6件		累計30件
		進捗率	－	30%	80%	120%	150%		
		平成30年度	評価(C)	【平成30年度 事業評価】					
担当課評価	観光については、宿泊客数も順調に推移しており、起業に向けての相談やチャレンジショップ支援事業補助金の問い合わせは例年通りあった。平成30年度での新規開業は1件であったが、相談件数は増えており起業への後押しとなっている。								
改善(A)	A								
	【令和元年度における取り組みなど】 産業振興を目的とした各産業団体への支援や地域素材を生かした仕事づくりを図るため、これまでの事業を継続して実施し、移住・定住事業とも関連があることから総合的に対応し事業の推進を図っていく。								
有意識者会議	有識者会議評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。							
	A								

基本目標 2

美しい環境を生かした新しい
ひとの流れを創造する

（２）基本目標２：美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する

■数値目標

目標項目	基準値	目標値（２０１９年）
①UI ターンの拡大 移住促進事業による定住件数	—	１０件
②年間宿泊客数（交流人口）	６２９千人	６５０千人
③魅力度全国ランキング	８４位	毎年上昇

■基本的方向

- 観光資源、農水産業、にぎわいのある市街地形成や商業環境、快適な住環境の形成、移住促進住宅の整備、多種多様な道路・交通ネットワークの形成など、魅力的なまちづくり・情報発信により、子どもからお年寄りまで誰もが住みよいまちを創造し、移住・定住を促進する。
- 特色ある観光地として、優れた農水産物を活かした「食」、体験型でテーマ性のある多彩で魅力的な観光資源を一体化・融合させた有機的な取り組みを積極的に推進し、自然を満喫できるスポーツ観光やマンガ・アニメフェスタなど特色あるイベントの開催など、国内外から多くの人々が訪れる国際的滞在型観光の形成による交流人口の拡大を図る。

■具体的な施策と客観的な重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
①移住・定住促進 ・居住環境整備への助成 ・移住促進住宅の整備 ・空き家データベース整備事業	・年間リフォーム件数：１００件 ・年間移住相談件数：１０件
②社会減の縮小を目指した魅力ある地域体験暮らしの実施 ・移住体験への助成	・移住体験の年間希望者の件数：３０件
③地域資源「温泉」を活用した元気なひとの多いまちづくり ⇒高齢者・障がい者をはじめ、誰もが住よい生活環境や生活交通の実現による魅力ある地域づくりの創出 ・洞爺湖町版 CCRC の調査研究事業 ・買い物支援バスの運行 ・高齢者福祉証の発行 （入浴助成、高齢者公共交通の無料化）	・退職者及び高齢者による移住体験：１０件 ・洞爺湖町版 CCRC 関連事業者の相談件数：２件 ・生活環境整備の満足度：６０％
④観光誘客促進による交流人口の拡大 ・国内観光客向けのＰＲ ・国外誘客素材の作成 ・スポーツ観光の推進や特色あるイベントの開催 ・外国人観光客向け観光案内窓口の設置 ・SNS 等の ICT を活用した情報発信の助成	・年間宿泊客数：３万人の増（２０１９年度まで）

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:産業振興課							
基本目標	2 美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する								
具体的施策	①移住・定住促進								
事業概要	いつまでも元気で住み続けられる地域の創造のため、居住環境整備の助成事業や単身者及び子育て応援住宅の整備を実施し、職場のある地域で居住できるような対策を図っている。また、ワンストップ窓口を設置し、移住に関する相談に対応している。 【主な関連事業】 住宅リフォーム支援事業助成金、子育て支援住宅改修事業、定住促進住宅整備事業、空き家バンク事業、西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進事業								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 リフォーム件数							
		KPI	500件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	109件	81件	87件	85件		累計362件
		進捗率		22%	38%	55%	72%		
		②目標事項 移住相談件数							
		KPI	50件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	23件	36件	42件	68件		累計169件
		進捗率		46%	118%	202%	338%		
		平成30年度	評価（C）	【平成30年度 事業評価】					
担当課評価	定住促進推進事業として、空き家バンク・ワンストップ窓口による相談・支援などを実施し、切れ目のないサービスを展開している。特に、空き家バンクにおいては、ホームページの閲覧件数が増えており、併せて相談件数も増えている。								
改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】								
	洞爺湖町における移住・定住を促進させるため、ホームページ・SNS等の情報発信方法や情報内容を検討し、西胆振圏域としてもフェア等の参加により移住・定住希望者へのPRを図る。空き家バンクの閲覧件数が伸びている為、物件の登録件数を増やすため更なるPRを図る。								
意 有 識 者 会 議 見 議	有識者会議 評価	○移住者及び定住者とのコミュニケーションを図り、移住者等の体験談などの聞き取りするなど、それらの意見を参考に新たな移住・定住促進の施策を検討していただきたい。							
	有識者会議 評価	○空き家の周辺環境美化対策も含めた移住定住施策を確立されるよう検討していただきたい。							

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:産業振興課							
基本目標	2 美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する								
具体的施策	②社会減の縮小を目指した魅力ある地域体験暮らしの実施								
事業概要	移住希望者の生活体験及び移住準備の利用に供するための施設を設置し、観光旅行では知り得ることのできない、ありのままの洞爺湖を体感し移住・定住の促進を図っている。 また、洞爺湖温泉のホテル・旅館に滞在（6泊7日）し、滞在中は周辺地域を職員が案内し住まいの事や地元ならではの情報を提供している。 【主な関連事業】 ちよっと暮らし事業（移住体験住宅）、洞爺湖deちよこっと暮らし事業（ホテル等）								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 移住体験の希望者							
		KPI	150件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	28件	30件	34件	20件		累計112件
		進捗率		19%	39%	61%	75%		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	移住体験住宅は、夏場に申込が集中する傾向はあるが、平成30年度も1年間を通して利用された。定住した世帯は無かったが、洞爺地区に土地を購入して、今後別荘を建築する利用者がいるなどの効果があった。また、数年後に移住するための選択肢としての利用があった。						
		B							
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 利用者の満足度と利用希望は多いため継続する。 また、虻田地区での移住体験住宅を検討する。							
意 有 識 者 会 議 見 議	有識者会議評価	○民間の空き家を活用した移住体験事業を検討していただきたい。							
	B								

施策・事業進捗状況シート

平成 30 年 度		担当課:健康福祉課、企画防災課、産業振興課							
基本目標		2 美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する							
具体的施策		③地域資源「温泉」を活用した元気なひとの多いまちづくり							
事業概要		高齢者・障がい者をはじめ、誰もが住みよい生活環境や生活交通の実現による魅力ある地域づくりの創出のため、町営浴場及び民間温泉施設での入浴に対する助成を実施し、健康増進と外出の機会の確保を図っている。 また、外出時の移動手段を確保し、通院、買い物及び入浴等の外出時の移動手段として、一部の交通買い物支援バスなど地域公共交通の確保を図っている。 【主な関連事業】 「生涯活躍のまち」調査研究事業、買い物支援バス運行事業、高齢者入浴助成事業、高齢者交通費助成事業、ちょっと暮らし事業（移住体験住宅）、洞爺湖deちょっと暮らし事業（ホテル等）							
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 退職者及び高齢者による移住体験							
		KPI	10件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	－	9件	6件	12件	5件		累計32件
		進捗率		90%	150%	270%	320%		
		②目標事項 洞爺湖町版CCRC関連事業者の相談件数							
		KPI	2件／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	－	3件	－	－	－		
		進捗率		150%	150%	150%	150%		
		③目標事項 生活環境整備の満足度							
		KPI	60%以上						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	－	100%	100%	100%	100%		
		進捗率		100%	100%	100%	100%		
平成 30 年 度	評価（C）	【平成30年度 事業評価】							
		担当課 評価	誰もが住みよい生活環境整備や生活交通の実現のため、地域公共交通の確保や民間温泉施設などの入浴助成をはじめとした事業に取り組んでいる。目標通りに進捗しており継続して事業の推進を図っていく。						
	A								
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 住み慣れた地域で自分らしく生き活きと暮らすことができる環境づくりを図るため、高齢者福祉証の発行事業を継続する。また、買い物バスなど利便性の高い交通手段を目指すため、各地における住民説明会や意見交換会などを開催し住民ニーズに対応した運行を検討・実施することで更なる満足度を高める。							
意 有 識 者 会 議	有識者会議 評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。							
	A								

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:観光振興課							
基本目標	2 美しい環境を生かした新しいひとの流れを創造する								
具体的施策	④観光誘客促進による交流人口の拡大								
事業概要	国内外に向けて旅客誘致活動を展開し、自然を満喫できるスポーツ観光やマンガ・アニメフェスタ等の特色あるイベントを開催し受け入れ事業も実施している。 また、道南バスターミナル内に観光案内窓口を設置し、外国人観光客にも対応した観光案内、バスチケット販売等を実施することにより、観光客の利便性の向上を図っている。 【主な関連事業】 ジオパーク広域連携事業、多目的人工芝スポーツ施設整備事業、地域PR活動助成事業、各イベント等補助事業								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項	年間宿泊客数						
		KPI	3万人の増／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	628,758人	686,450人	698,553人	733,003人	722,621人		
		進捗率	—	192%	232%	347%	312%		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	【平成30年度 事業評価】 震災の影響から観光客が減少したが、スポーツ観光を推進するとともに、特色あるイベントの開催により年間を通して大きな落ち込みにはならなかった。特に年明け以降は道外観光客が大幅に増加した。 道南バスターミナル内にチケット自販機を設置したことで、観光客の利便性が向上された。また冬期間の二次交通確保に向けた実証実験も順調に乗車率が伸び、令和元年度からバス会社により自走運行されることとなった。						
		A							
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 近年は個人旅行者が急増していることから、SNSによる情報発信を強化するとともに、紙媒体のみで対応していた観光ガイドブックをWeb媒体で発信できるよう取り組んでいく。 教育旅行誘致は、札幌圏域を中心とした小学校への訪問活動や、首都圏並びに東北・北関東へのプロモーションを実施する。 登別洞爺広域観光圏協議会では、ニセコエリアから洞爺までの2次交通整備向けアクセスバス運行実証実験を実施し、新幹線延伸時に向けた周遊ルートの確保に努める。							
意 有 識 識 者 者 会 会 見 議	有識者会議 評 価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。							
	A								

基本目標 3

自然豊かなまちの魅力を生かし、
結婚・出産・子育ての希望をかなえる

（３）基本目標３：自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる

■数値目標

目標項目	基準値	目標値（２０１９年）
①合計特殊出生率	１．２４	１．４０
②婚姻の件数	３３件	４０件
③教育事業等の開催及び参加者数	—	毎年増加

■基本的方向

- 出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない子育てしやすい地域社会を実現するため、経済的支援や子育て世代の女性が社会参加しやすい地域づくり、保育・相談窓口等の人的支援の継続と拡充を進める。
- 社会で生きる実践的な力の育成、豊かな心と健やかな体の育成、学校・家庭・地域と連携した学習環境づくりを基本として、具体的活動の展開を図る。

■具体的な施策と客観的な重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
①結婚の希望をかなえる地域の魅力を生かした出会いの場の創出 ・婚活イベントの開催	・結婚の希望をかなえる事業の満足度：70%以上（参加者アンケート実施）
②出産・子育てに対する支援策の充実 ・出産祝金の支給 ・インフルエンザワクチンの助成 ・乳幼児医療助成等の拡大（中学生まで医療費の無料化） ・保育、学童保育の充実 ・空間創造によるふれあい・交流・遊び場の提供	・出産、子育て環境に対する満足度：70%以上（対象者アンケートの実施）
③学校・家庭・地域と連携した学習環境の創造 ・共通指標となる学力向上スタンダード10の実践 ・まちの環境や人材を生かした特色ある教育、各種教育事業の実施 ・総合型スポーツクラブ活動の充実 ・家庭と地域が連携した学校以外の学舎の提供事業（地域未来塾、子ども朝活） ・読書環境の整備（虻田・洞爺湖温泉・洞爺地区）のネットワーク化 ・高等学校教育の充実（北海道虻田高等学校維持対策事業）	・年間図書貸し出し数：300冊の増 ・関連事業の参加者：10%増 ・北海道虻田高等学校入学者数：21人（2019年度まで）

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:産業振興課							
基本目標	3 自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる								
具体的施策	①結婚の希望をかなえる地域の魅力を生かした出会いの場の創出								
事業概要	少子化や後継者不足の要因のひとつである未婚化、晩婚化が進む中、結婚を希望する独身男性及び女性に対して恋の芽生える機会を提供し、産業に携わる青年部をはじめとした町内に居住する若者の結婚を支援すると共に若年世代の交流により地域における後継者の確保を図っている。 【主な関連事業】 後継者対策支援事業補助								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 結婚の希望をかなえる事業の満足度							
		KPI	70%以上						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	88%	83%	86%	—		
		進捗率		100%	100%	100%	—		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	胆振東部地震の影響により参加者のキャンセルが相次ぎ、事業を中止せざるを得ない状況となった。その後も時期を変えて、冬季の事業実施も模索したが、参加者数が確保できないなどの理由から実施に至らなかった。						
		C							
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 過去5回の開催で6組が婚姻したとの報告があるが、近年、男性参加者が減少傾向にあるため、アンケート結果を基に内容の改善を検討する。							
有識者会議	有識者会議評価	○今年度においては胆振東部大震災の影響により、KPIの評価指標の数値を得られない特別な事情があることから「評価なし」とする。							
	—								

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:健康福祉課、管理課							
基本目標		3 自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる							
具体的施策		②出産・子育てに対する支援策の充実							
事業概要		結婚・出産・子育ての希望を実現し、子どもが健やかに育つための切れ目のない支援の継続と拡充が求められている中、次世代を担う子供の出産を祝福するとともに、児童の健全な発育及び福祉の増進を図ることを目的とする出産祝金を支給し、中学生までの医療助成については、自己負担額を無料にすることにより、子育て世代の医療費負担を軽減するとともに、子どもの保健及び福祉の向上を図っている。 また、地域全体で子育て家庭に対する育児支援を行うことを目的として、保育所解放、子育て相談、情報紙の発行、子育てサークルへの支援、更には子どもの居場所づくりとしての地域食堂の開設、コミュニティ・スクールの一部設置など関係機関と連携し、子育て家庭の支援を行っている。 【主な関連事業】 出産祝金支給事業、子どもインフルエンザ予防接種助成事業、乳幼児等医療助成事業、遊具の修繕等、子育て支援センター運営事業、地域食堂事業、コミュニティ・スクール設置、保育料・幼稚園教育費助成							
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 出産、子育て環境に対する満足度							
		KPI	70%以上						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	92%	100%	100%	100%		
		進捗率		100%	100%	100%	100%		
平成30年度	評価（C）	【平成30年度 事業評価】							
	担当課評価	子育て世帯の医療費を軽減するため、中学生までの医療費助成を継続実施するとともに、就学援助基準の見直しや保育所及び私立幼稚園の利用者負担金の半額助成、満2歳未満児への紙おむつ処分のための指定ごみ袋の現物支給、中学2年生を対象としたピロリ菌検査などを実施し、子育て相談、子育てサークルへの支援など地域全体での育児支援を行ったことにより、目標通りに進捗している。							
	A								
平成30年度	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】							
	これまでの子育て施策を継続実施するとともに、平成30年度より新たに開始した、支援を要する子どもたちの療育や学習支援、更には食事の提供などを行う地域の居場所づくりに資する地域食堂の運用やコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の全校設置により、保護者及び地域住民等の参画による学校運営の改善や児童生徒の健全育成を図るなど、出産・子育て世帯の支援を推進する。								
平成30年度	意 有識者会議	有識者会議評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。						
	A								

施策・事業進捗状況シート

平成 30 年 度		担当課:管理課、社会教育課							
基本目標		3 自然豊かなまちの魅力を生かし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる							
具体的施策		③学校・家庭・地域と連携した学習環境の創造							
事業概要		学力向上、特色ある教育、家庭・地域との連携の視点から洞爺湖町の子供たちを育むことを目的として、学校が中心となり「やりがいのある」「楽しい」「わかる」授業を進め、子どもたちの主体的に学びのための１０の指標の実践と課題の検証を行っている。 また、読書環境の整備のため、「あぶた読書の家」及び「みずうみ読書の家」「洞爺総合支所図書室」のネットワーク化を図り、読書に親しむ環境の整備を図っている。 【主な関連事業】 教育改善推進事業（洞爺湖スタンダード10研修委員会）、社会教育奨励事業、地域未来塾、図書ネットワークシステム構築事業、虻高未来づくり推進委員会設置							
計画（P）↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 図書貸し出し数							
		KPI		1,500冊の増／5年間(計画最終年度値)					
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	9,670冊	9,681冊	9,127冊	9,438冊	9,738冊		最終目標値11,170冊
		進捗率	—	1%	△36%	△15%	5%		
		②目標事項 関連事業の参加者							
		KPI		10%増／5年間(計画最終年度値)					
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	618人	941人	1,491人	2,176人	2,330人		最終目標値680人
		進捗率	—	521%	1408%	2513%	2761%		
		③目標事項 虻田高等学校入学者数							
		KPI		21人以上(計画最終年度値)					
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	—	—	14人	13人		最終目標値21人以上
		進捗率	—	—	—	67%	62%		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	【平成30年度 事業評価】						
		図書施設の利用においては3ヶ所を繋ぐネットワークの構築や、学校及び老人施設等の遠隔地における利用の不便を解消する定期貸出を実施するなど利用者の増に努め、社会教育奨励事業において町民のニーズに応えた放課後対策の一環として「母子の館の日」の新たな事業を設け参加者数の増に繋がった。 また、平成30年度中、虻田高校存続に向けて「虻高未来づくり推進委員会」を4回開催し、将来像を示した提言書(魅力化・地域連携・学校生活)が示されました。							
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】							
		基礎学力の向上や学習習慣を身に付けるための地域未来塾などの関連事業については、継続して取り組みを実施し一層の充実を図っていきますが、事業実施には学校・地域・家庭の連携が不可欠であるところから学校支援ボランティアの活用を積極的に図るとともに、町民のニーズに応えた事業の実施、洞爺湖町内における特色ある地域資源を活用しながら社会教育事業を実施してまいります。 また、虻田高校存続に向け、虻高未来づくり推進委員会からの提言書を基に地域の協力を得ながら、取組みを進めてまいります。							
意 有識者会議	有識者会議評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。							
		B							

基本目標 4

特色ある地域をつくり、安心な暮らしを
守るとともに、地域と地域を連携する

（４）基本目標４：特色ある地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

■数値目標

目標項目	基準値	目標値（2019年）
①広域連携による観光客の入込み数	280万人	300万人
②全町実施防災訓練の実施及び自主防災組織の組織率	実施回数 2回 自主防災組織率 0%	毎年2回開催継続 組織率 20%

■基本的方向

- 洞爺湖有珠山ジオパーク構成市町との連携の継続と世界ジオパーク、日本ジオパーク認定地域との連携やネットワークの形成から観光の広域にわたるエリアとしての魅力的発展を実現する。
- 西いぶり定住自立圏としての医療や産業、観光等の連携による生活利便性の確保を図る。
- 地域課題に対して地域が一丸となって克服し、災害に強く、地域特性を生かした生活利便性の高いまちを創造する。
- 洞爺地区の他地域との格差を是正し、地域特性を生かした魅力あるまちづくりを進めるため、「小さな拠点」の形成や豊かな自然と穏やかな環境のもとで、特色ある住環境の創出による移住・定住を促進する。

■具体的な施策と客観的な重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標（KPI）
①洞爺湖有珠山ジオパークによる広域連携 ・洞爺湖有珠山ジオパーク構成市町との連携 ・世界ジオパーク及び日本ジオパーク認定地域との連携 ・洞爺湖有珠山ジオパークと他地域との連携	・観光客入込数：20万人増（2019年度まで）
②医療・防災・産業などの生活利便性確保と地域振興に向けた広域連携 ・西いぶり定住自立圏等による広域連携事業の実施 ・「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた調査検討	・連携事業数：8事業
③地域と連携した災害に強い地域づくり （「自助」「共助」「公助」体制の構築） ・自主防災組織支援（助成事業及び設置相談の実施） ・防災訓練（噴火・津波・土砂災害を想定した訓練）	・毎年自主防災組織の新設置：2自治会
④公共施設や生活基盤の近接化による「小さな拠点」の形成 ・小さな拠点の整備（公共施設の集約） ・洞爺地区振興策検討委員会提言事業（洞爺高校の跡地利用）	・小さな拠点の形成：1箇所

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:ジオパーク推進課、観光振興課							
基本目標	4 特色のある地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
具体的施策	①洞爺湖有珠山ジオパークによる広域連携								
事業概要	洞爺湖有珠山ジオパークは、ユネスコ世界認定を受けた地域資源を生かし、旅行の目的地となる地域づくりとして、教育活動の充実と交流人口の増加による地域活性化を目指し事業を展開している。 洞爺湖有珠山ジオパークを構成する1市3町は、唯一無二の地域性を活かしたジオパークブランドを確立し、連携して地域住民や観光事業者と共に地域・観光地づくりを進める。 【主な関連事業】 ジオパークDMO観光地づくり連携事業、ジオパーク広域連携事業、過疎地域等自立活性化推進事業（H31～）								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 観光客入込数							
		KPI	20万人増／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	2,793,161人	3,010,723人	3,067,511人	2,931,633人	2,592,451人		
		進捗率	—	109%	137%	69%	△100%		
平成30年度	評価（C）	【平成30年度 事業評価】							
		担当課評価	世界に評価される地域資源を活用しながら1市3町で構成する推進協議会が母体となり事業を推進し、洞爺湖町内では再認定審査を機に環境省と連携した施設表示の強化、また「ジオパークと大地の恵み展」の会場の改修等を行いジオパークブランドの浸透を図ってきた。 平成30年度の観光客入込数については、宿泊型観光への移行が見受けられ減少となったが、宿泊客数では震災の影響を除いては順調に推移していることから、一定の事業効果が見受けられたと思われる。						
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】							
		今年度も構成市町や認定地域等との連携を図り、更なる認知度向上と観光客入込数の増加のため、継続して事業を推進する。また、今年度、洞爺湖町内では過疎地域等自立活性化推進交付金の採択を受け、「環境にやさしい暮らしと旅の提案」をテーマに、住民と旅行者の持続可能な社会を支える環境配慮行動の促進を図る。							
	有識者会議	有識者会議評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。						
	見識	B							

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:企画防災課							
基本目標	4 特色のある地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
具体的施策	②医療・防災・産業などの生活利便性確保と地域振興に向けた広域連携								
事業概要	生活を支える医療や地域公共交通の確保など、生活基盤を支える広域連携を図るため、西いぶり定住自立圏の構成市町による圏域での取り組みとして、医療機関間の連携を促進し救急医療体制の確保などにより、住民の安心を支える地域医療体制の充実を図っている。 また、災害時の相互応援体制の構築や圏域内における産業の担い手・雇用の確保や地域企業の活性化支援などに連携して取り組んでいる。 【主な関連事業】 西いぶり定住自立圏共生ビジョン事業、西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進事業								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 連携事業数							
		KPI	8事業継続						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	8事業	8事業継続	8事業継続	8事業継続	8事業継続		
		進捗率	—	100%	100%	100%	100%		
		平成30年度	評価（C）	担当課評価	【平成30年度 事業評価】 圏域を構成する6市町が連携と役割分担を行い、定住のための暮らしに必要な諸機能を確保するため、医療をはじめとした連携事業を行っている。西いぶり「生涯活躍のまち」構想も策定され、単独市町の取り組みと並行した広域連携の取り組みが進められている。				
A									
改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 西いぶり定住自立圏推進のため、各協定分野毎に連携事業を検討していく。また、関係機関と連携しながら、移住フェアへの出展やポータルサイト等での情報提供を行う。								
意 有 識 識 者 者 会 会 見 議	有識者会議評価	○担当課の評価及び改善点で良しとする。							
	A								

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:企画防災課							
基本目標	4 特色のある地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
具体的施策	③地域と連携した災害に強い地域づくり								
事業概要	西いぶり定住自立圏構成市町により、災害時の相互応援体制の構築などにより、圏域内における防災体制の充実を図っている。 また、当町においては、おおよそ30年周期で有珠山が噴火を繰り返していることから「自助」「共助」「公助」による地域が一丸となった避難体制の構築や防災体制を確立し、自主防災組織の支援や噴火・津波などを想定した防災訓練を実施している。 【主な関連事業】 自主防災組織活動育成事業、防災訓練実施事業								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項 自主防災組織の新設置							
		KPI	10自治会／5年間						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	2自治会	2自治会	1自治会	1自治会		累計6自治会
		進捗率		20%	40%	50%	60%		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	9月の有珠山噴火災害を想定した防災訓練は、胆振東部地震の影響により中止となったが、津波災害を想定した防災訓練は3月に実施。 また、地域と連携した防災体制確立のため、各自治会へ自主防災組織設立に伴う説明や地域担当職員による情報提供を実施しており、ほぼ目標通りに進捗している。						
		B							
	改善（A）	【令和元年度における取り組みなど】 自主防災組織が未設立の自治会に対して、設立の趣旨や必要性を理解してもらうため、説明会を継続実施する。 また、設立済の自治会に対しては、補助金の活用を推進するとともに、防災研修等への支援や町が開催する防災訓練等への積極的な参加を促し、自主防災組織の活動育成を図る。							
有識者会議見識	有識者会議評価	○自主防災組織（洞爺湖温泉地区）の早期設置と、小規模自治会（洞爺地区）に対する組織の枠組みを検討していただきたい。 ○観光地であることを踏まえ、防災対策を更に強化していただきたい。							
	B								

施策・事業進捗状況シート

平成30年度		担当課:庶務課、管理課							
基本目標	4 特色のある地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
具体的施策	④公共施設や生活基盤の近接化による「小さな拠点」の形成								
事業概要	洞爺地区の他地域との格差を是正し、地域特性を生かした魅力あるまちづくりを進めるため、ふるさと交流センターに老朽化した郷土資料館の移転と、高齢者等の交流の場として「高齢者サロン」の整備を実施し、「小さな拠点」の形成や豊かな自然と穏やかな環境のもとで、特色ある住環境の創出を図っている。 【主な関連事業】 洞爺地区旧診療改修工事、洞爺公民館の解体、洞爺高校校舎等の解体、洞爺保育所新築工事、洞爺高校メモリアル公園整備工事								
計画（P）↓実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項	小さな拠点の形成						
		KPI	1箇所						
			基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
		数 値	—	1箇所	—	—	—		
		進捗率		100%	100%	100%	100%		
平成30年度	評価（C）	担当課評価	【平成30年度 事業評価】 小さな拠点の形成については、洞爺地区振興策検討委員会の提言を受け、郷土資料館の移設、高齢者等による交流の場として機能を集約するため、洞爺地区旧診療所の改修工事を実施し、当該施設の有効活用も図られている。 旧洞爺高校の跡地利用について、洞爺保育所及び洞爺高校メモリアル公園の新設整備が完了した。						
		A							
	改善（A）	改善事項	【令和元年度における取り組みなど】 旧洞爺高校の跡地利用として新設整備した洞爺保育所及び洞爺高校メモリアル公園について、適切な管理のもとでの利用促進を図る。 ふるさと交流センター（旧診療所）は、高齢者等の交流の場として、定期的に有効活用されており、公共施設の集約により効率的な施設運営と世代間の交流が図られている。						
平成30年度	意見者会議	有識者会議評価	○今後の事業推進にあたり、地域の特性を生かした将来ビジョンについての検討について移住者等も含めて、意見を集約されたい。						
		A							

